

## 徳島県総合計画審議会 会議録

I 日時 令和4年2月4日(金) 午前10時45分～午後0時15分

II 場所 JRホテルクレメント徳島

III 出席者(委員44名中29名出席)  
(委員)

山中英生会長、中央子副会長、青木正繁委員、井上知美委員、大森千夏委員、  
梯学委員、唐崎(檜)千尋委員、来田美晴委員、小谷憲市委員、小林通伸委員、  
近藤洋祐委員、影治信良委員、齒朶山加代委員、清水康代委員、瀬尾規子委員、  
高井正明委員、近森由記子委員、寺内カツコ委員、布川徹委員、福山徳委員、  
古本奈奈代委員、松浦ひろみ委員、松尾彩委員、松崎美穂子委員、松永好史委員、  
真鍋恵美子委員、真鍋浩章委員、三谷茂樹委員、森本和代委員

(県)

知事、企業局長(政策創造部長事務取扱)、各部局副部長 ほか

### IV 議題

1 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の見直しについて

2 その他

<配布資料>

資料1 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の令和4年度に向けた見直し  
(案)について

資料2 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』見直しシート

資料3 令和4年度版『『未知への挑戦』とくしま行動計画』重点項目一覧

資料4 県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応  
方針等

資料5 県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」  
への対応方針等

資料6 『『未知への挑戦』推進部会』(令和3年12月3日)における委員意見へ  
の対応内容

資料7 対話集会「新未来セッションNEO・2021」意見への対応内容

### V 会議録

1 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の見直しについて

- ・「未知への挑戦」推進部会での審議内容について、金部会長(副会長)から報告
- ・事務局より『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の見直しについて、資料1、  
資料3等により説明

その後、意見交換が行われた。

## <意見交換>

(山中会長)

これから意見交換に入りたいと思います。12時30分までということで伺っております。いまから約1時間ほどくらいですが、事務局のご連絡と知事さんからの一言、コメントをいただきたいと思いますので、12時20分くらいまでを目処に意見交換を進めて行きたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。30数名いらっしゃるの、なるべくコンパクトにご意見を、できるだけ多くの方にお話いただきたいと思っています。途中で切るのは非常に心苦しいので、できるだけみなさんにお話をさせていただけたらと思っています。それではご協力よろしくお願いいたします。どなたからでも結構ですので、今回見直しのテーマあるいはこれ以外にもご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

瀬尾委員、お願いします。

(瀬尾委員)

質問させていただきます。国の方で先ほど知事からもおっしゃられましたが、岸田総理大臣からデジタル田園都市国家構想ということで、5.7兆円の投資すること、デジタル支援員を推進するという話があったと思います。DXを推進してきたことが現実となってきたと思いますが、本県の行動計画にどのように反映されているのでしょうか。

(山中会長)

はい。ご質問ありがとうございます。じゃあ質問は後にして、ほかにご意見がありましたらお願いします。梯委員、お願いします。

(梯委員)

資料3のところに、人生100年時代、学びの充実のところに記載がされております。当初私も人生100年時代というものもあるんだなと思っていたのですが、いよいよ私も還暦を迎えることとなりまして、100年というのは決して変な数字ではないのかなと思っています。人生100年時代となりますと、下は幼稚園、小学生、上は、私の母親もまだまだ90歳で元気なのですが、非常に手に負えない老人が県内で活躍をすると、いろいろな世代間を繋げていくのかというのがこれからの問題になるのではないかなと思います。元気なシニアの方には働ける場を提供してもらわなければならないですし、小学生にはいかに好奇心を満足にしていけるかを検討していかなければならないと思います。徳島としては、文化だったりスポーツの分野においてももう少し力を入れていくことによって、観光の分野においてもスポーツや文化を入れていく。バスケのプロチームも徳島にもできるというニュースに流れておりましたが、人生100年時代は、徳島県民にとりましても文化やスポーツの部分で健康ますます増進していく、観光に取り入れていくことも一つではないか。そういうものにDXを使いまして世代間をいかに文化とスポーツで繋げていくのかということを取り上げていかなければならないのではないかなと思います。徳島は阿波おどりが全国また世界に発信する文化もありますので、そういう中で観光をいかに盛り上げていくかという部分、また県民の健康増進を受動していくかという部分でも文化であった

り音楽、いろいろ含めての文化であったりスポーツであったりというものをもう少し力をいれていってもいいのではないかと思います。

(山中会長)

ありがとうございます。仰るように文化とかスポーツとかを、観光とか人のつながりとか、別の分野に対する波及をどんどん進めて行くということは大切なご指摘だと思いました。いかがでしょうか。それでは次ご質問ある方どうぞ。

(唐崎委員)

これだけの資料本当にありがとうございます。うれしく思います。梯さんからも文化とかスポーツとかの話がありました。新ホールについて知事ありがとうございます。私の生徒に高3の子がいるんですけど、大学を悩んで、バレエとか舞踊がすごく大好きな子だったんですけど、その子のやっぱり将来を考えると一般学部に進もうかという話をしてたんですけど、新ホールが建設されるという話をニュースとか新聞で読んで、大学の進学を芸術学部に変えました。自分の4年間舞台の勉強して、それで仕事、修行して帰ってくるとちょうどホールができていうことで、本人が親を説得して学校の先生も説得して自分でこうやっていくというような、本当に夢を与えてくれたというか希望とか、自分の生き方に関して後押ししてもらった。こういう子ども達もこれから増えるのではないかと、思って、本当にありがたく思っています。楽しみにしております。ホールに関してましてユニバーサルデザインから一歩少し進んだインクルーシブなものとして建物とか概要が進んでいくのではないかと。もちろんDX・GX、SDGs含めて、今100年時代っておっしゃられるように、小さなお子さまから100年過ぎても文化やスポーツを楽しめるホールになるんじゃないかと、思って、そういうものを楽しみにしております。本当にありがとうございます。

それともう一つ、民俗芸能をしております、私の家にあります古い資料を県の後押しがありましてデジタル化がどんどん進んでおります。そのおかげでCDになったり写真集になったりして徳島の古い文化が形にどんどんなってます、今年のおわぎんホールさんのほうで大きな写真展をさせて頂くこととなりました。それは私個人の力ではどうしようもなかったところを、県の方に後押しをいただいてできました。文化だけではなくて教育であったりデジタルアーカイブとか徳島というところのバックボーンになりながら、根幹になりながら、万博や未来に向かって徳島唯一のモノとして世界に発信してその方達にまた徳島に来て頂く、阿波おどりなど四大モチーフだけではなくて根幹としてバックボーンになるんじゃないかと思っておりますので、文化、教育の方それから観光の方面に対してもいろいろ協力していただければと思っておりますし、私たちの方でもできるだけのことをして徳島をPRしていく、唯一無二のオリジナルの徳島というものを創り出して頂ければと思っております。これからもよろしくお願ひします。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。文化の大切さについて、たくさんの具体的な話をしてくださりました。劇場とかが単なる鑑賞場所ではなく、人を育てる場所という場所だという

精神、大切なご指摘だと思いました。

(大森委員)

県政でご尽力いただいておりますありがとうございます。資料2の16ページの番号275、生活保護のところなんですけれど、目標が関係機関と連携のもと生活保護の前の段階の生活困窮者の就業自立等を促進すると、その活動自体はとても素晴らしいことで、自分の力で、継続される方を支援するというだけでもっともなことと思うのですが、生活保護はその時点で必要な方には、すぐに生活保護の申請と生活保護の支給決定をお出しただいて、その目標はまあ頑張る方に、必要な生活保護というのが支給が遅れたりすることがないようにバランスをもって進めて頂けたらと思っています。私は依頼されたばかりの初回の受給が遅れるというか日数がいつになるかわからないということで、その間、どう生活していったらいいか、度々とはいいませんが、たまにされる状態です、そういうのがないように、必要なところに受給頂けるようにしていただけたらと思います。以上です。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

(松崎委員)

あすたむらんどに開館しました木のおもちゃ美術館ですけど、年間来館者数10万人ということで、10月24日にグランドオープンいたしまして、約3ヶ月経ちまして、33,000人を超えるご利用をいただいているところです。12月は1万6315人、年末年始は、徳島のご実家の祖父母に会いに来たということで県外の方が年末年始お越しになっていただきました。今はコロナ禍で少ないんですけど、3ヶ月で33,000人を超えているので、コロナ禍が収束すればですけど、人気で木のおもちゃ美術館の方も入館料800円も最初は年金生活で高いとかおっしゃいますけれど、家族で入ると結構すると言って、何人かは外でいらっしやると見てたんですけど、一旦入ると最低でも館内は広くて日本一大きい木のおもちゃ美術館ということで皆さん入った方は、すごいね素晴らしいねと、こんな施設が徳島にできたとはと皆さん感激して帰って行かれます。

この一週間はコロナ禍でずいぶん少なくなって土日の場合は、1,000人超えてたんですけど平日だと200人、300人だったんですけど、最近は90人ぐらいに減っております。ただ減っているんですけどカップルでこられたり、シニア世代の奥さんが来られたりだとか、県外から来られていると言われておりました。Instagram発信で徳島の木のおもちゃ美術館に是非来てみたいとおっしゃられたので私たちもスタッフとボランティアとしても年間10万人いかないかなと期待して、木のおもちゃ美術館に木育を普及・推進するという大きな役割させていただいているのではないかなと思いました。このおもちゃ学芸員さんというボランティアで活躍している方が第4期生養成講座受講されて180名登録されているのですが、その方が60代、70代、80代の方は少ないですけど、60・70代の方はいらっしやいます。その方達はボランティアで美術館に関わることで自分は仕事をリタイアしたんですけどここで子どもとおもちゃを通して関わることで自分

たちの体力と少し働けるのではないかとすごく自信をもたれた方がずいぶんと多くなっておりま。そこで資料2のアクティブシニアを保育士の保育助手という形でシニア世代の方が現場で働く、保育所の現場を支えるということで、書いて頂いているんですけど、赤字で実施主体である市町村と連携強化を図ることであるんですけど、シニア世代の方は子育て支援もしくはアクティブシニアの養成講座というところに行くのはすごく勇気がいるそうなので、もし市町村の方にお伝えするときには地域子育て支援センター、国の事業、もちろん県もちろんなんですけど、地域子育て支援センターというのが各市町村にございますので、木のおもちゃ美術館というよりは段階を経てアクティブシニアの方が現場に復帰して社会に役に立ちたいという思い、気持ちを強く持ち、地域子育て支援センター、各市町村にありますので、その活用というものも市町村にお伝えしていただければいいなと思。木のおもちゃ美術館の魅力とそれからシニア世代の方が働きたい、私は社会貢献できるんだと、自分を若返らせてみたいことを美術館から発信できていることをお伝えさせて頂いて終わらせて頂きます。以上です。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。木育という観点でずっと木のおもちゃの取り組みから進んでいるなど。特に木を使うデザイナーというか、そういう人たちの育成につながっていくんじゃないかなと。そうするとまた違った産業が徳島に出てくるのではというお話でした。

(布川委員)

最近のことで危惧されることがあるんですけど、昨年12月つるぎ町の半田病院でサイバー攻撃受けましたよね。そして電子カルテシステム、結局コンピューターウイルスが入ったことによって全く機能しなくなったことがあったことを皆さんまだ記憶に新しいと思うのですが、非常に県も5G、DX・GXこういったことに取り組むっていうのは非常に素晴らしいと思うのですが、サイバー攻撃対策に対してですね、対策こういったものをあわせてやっていただければより効果的になるのではないかなと。もう既にですね、やられているかもしれませんが、もしやられているのであれば、そこらあたりの説明をですね、うかがえたらありがたいです。以上です。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。DXを推進する上で、セキュリティをちゃんとやるというのはすごく大切なことだと思います。いま、そこがビジネスになっているところもありますね。

(近森委員)

GXというか、環境に配慮した施策が並んでおります。GXもしかりなんですけど、Xの部分が大それたと言われております。トランスフォーメーションというんですけど、人の意識を変える、行動の変容はすごく難しいと思います。意識はしているものの従来のやり方をしてしまう。変えていかなければいけないけれど難しいと思うことがあります。今回、

冊子も作るということで、意識に訴えかける部分とおもいますので、施策でしたり事業でしたり見解いただければなと思います。セキュリティの所なんですけど、すだちくんW i F iを入れさせて頂くんですけど、スマホに繋いだときにセキュリティが弱いですよと警告が出るんですね。利便性を高めるために通信が暗号化されていないものなんですけど、意識して分かって使っていたら大丈夫なんですけど、大事な情報を通信してしまうと読み取られてしまう可能性があるんで、ホームページには注意喚起でてるんですけど、少し分かりやすくというか、難しいかもしれませんが、通信セキュリティストアに入って頂く、そうすると利便性も高く、セキュリティも高く確保されますのである程度、県外から、海外からいろいろ、これから万博なども開催されますので利便性を高めるためにももう少しご加入頂ければ良いかなと思います。以上です。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。すだちくんW i F i、そんな風になっているんですね。はい。次の方どうでしょうか。

(寺内委員)

大阪万博は50年前だったと思うんですけど、その時は大方のパビリオンが大企業ではなかったかと思っておりますが、今回は中小の小さいながらも素晴らしい企業、誰もが出展できる雰囲気があるとお聞きしています。

徳島県は中小企業・小規模事業者が多い県ながら、素晴らしい徳島ならではの事業所があり、また、観光といえば阿波おどりというように、今は、コロナ禍で困っているところもございますけれども、意気沈むことなく2025年の万博に向けて、商工業や観光について今からしっかりとPRしていただいて、早く軌道に乗せていただきたい。

このようにこれからの徳島の経済、観光をはじめ全ての産業にすごく経済効果があることですから、日本はもとより世界に対して発信できるまたとないチャンスじゃないだろうかなと思いますので、もう少しリードしてもらいたいなと感じております。どうぞよろしくをお願いします。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。私も前の大阪万博の世代ですので、仰るように万博の大切さ、いろんなことが始まってくるなと思います。いかがでしょうか。

(清水委員)

建築業界はコロナ禍で県内外の仕事がかなり減っているという実感があります。建設物価も大変高騰しており予定価格を超えることもよくあるように感じております。

また民間でもこういった状況で建築しにくくなっていることがよくあります。県内で大きな仕事が出るときは実務実績から、県内の実績から大手企業でないと入れないと、プロポーザルに入れないというのが多々あるのが現状であります。大きな仕事も是非県内企業に限ってはハードルを下げさせて頂いて、県内企業に関しては有利に入札やプロポーザルに参加できるように資格を与えて頂けると大変ありがたいと思います。そうすることで県内企業

が育ちまたこの実績を使って県外でも仕事をとれるということで県内で大きな企業が育っていくと思います。

あと身近なことなんですけど、前回の審議会で食品トレーをリサイクルに出すのが面倒だとお伝えさせて頂いたんですけど子育て世代で私の周りでも同じように感じている人が多いことが多々いるようです。それでスーパーに持って行っても満杯で出せないこともあるようです。うちの下の子が通っている幼稚園では1ヶ月に1度回収日がありますけど、そこまで溜めておくことはなかなかできないのでそれまでに出してしまうことがあります。

そこで小学校や中学校でリサイクル施設を常設していただきたいと思います。子供の仕事としてトレーを洗って学校に持って行くことをしてくれたら親も大変助かりますし、環境教育になり回収率も高くなるのでは無いかと思います。よろしくお願いします。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。建築業界のお話をいただきました。BCPということで、小さな企業さんと一緒になって官民連携と話が進んでおりますので、ぜひ県内企業さんも入っていければと思います。小学校のリサイクルボックスってないんですよ、実際。ごめんなさい、長くなるので、次にいきましょう。

(古本委員)

安全安心と言うことに関してですが、県外で来られる方でいくつか選択ポイントがあるのですが徳島に来ると安全安心で手厚い医療が受けられるという点がひとつ重要なことでは無いと思うのですが徳島の医師数の問題だと思うんです。歯医者さんは多いのですが他の専門医の数というのが人口に対してどの程度かあまりわからないんです。医療が割と大変というか高度医療というのに関してそれほど信頼がおけないというのもあると思うんです。例えばコロナに関しても総合病院の受入病床数に対して、実働のスタッフが不足しているというのでも少し検証してみることもあるのではないかとこのように思います。例えば高齢者の在宅医療と言うことでそこら辺の在宅医療ができるという以前に徳島の医療と言うことに関して少し設備とかスタッフの面でも大学生は外に流れてしまうということがあると思うんですけど例えばなんかその医療人材バンクのようなものであるとか当直医も非常に少なくてたらい回しと言うこともよく聞くのでそこらへんも、徳島に来たら手厚い医療が受けられるというような、人が集まるようなそういうものを新設する、徳島ならではのそういう誘致の切り口というのを少し考えて徳島県民の安全安心もそうなんですけど、専門医の人口割合というのでも一回検証してみる必要があるという風に感じています。

(山中会長)

ありがとうございます。医療分野の話はおっしゃるとおりですね。うちの大学でも、医師の輩出というのは全国的には増やさないとポイントを置いているんですけども、現実には、徳島県のお医者さんはかなり高齢化されている。今後これでいいのかという議論もされています。

(松永委員)

eスポーツの施設についてなんですけど、アミコビルの中に青少年センターの中にeスポーツの拠点ができるということで、徳島イノベーションズの目と鼻の先にできるということで非常に注目しているんですけど、ともすればeスポーツ、ゲーム、悪ということで捉えられる側面があるんですけど徳島県の場合は飯泉知事をはじめとしてですね、eスポーツのプラスの側面を有効に捉えて発信をされているなど感じています。資料1にも書かれているようにeスポーツを通じてですね高齢者であるとか、障がい者についても、支援に力をいれられているということは評価できることと考えております。やはりeスポーツということで年齢の差であるとか、性別の差、障害のあるなしに関わらず、例えば足をけがしたサッカー選手がeスポーツの選手を目指せるとかですね、そういったプラスの夢のある事業だと思っています。そうしたeスポーツに注目されて、青少年センターの中に、しかもその中にeスポーツの拠点を行政の思想で作るとというのが画期的であると思えますし、全国で注目される取組になるんじゃないかなと思っています。県民に親しんで頂けるように単なるゲームの起点としてではなくて、プログラミング等をはじめとするようなSTEAM教育へと発展させて頂けると、より県民もeスポーツは発展性があるんだなと徳島県はすごいなというふうに捉えて頂けるのではないかなと思っていますので、より発展性のある場所にしていただけるように期待を込めて終わらせて頂けたらと思います。

(山中会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、一つの文化というかこれから当たり前のものになってくるんでしょうね。我々の時代は漫画を読んでいると怒られた時代ですが、今や日本の誇りみたいになっていますし、これから世界はどんどん変わってくると思います。

(小谷委員)

女性や若者と取り組む地域防災力向上シンポジウムを先日徳島で開催して頂いたり、小・中・高校生や徳島県内防災士の養成、そして徳島大学の中に防災を専門で学べる講座などで子ども達や大人の勉強と言う事では、ひとつクリアしているのかなと思います。次のステップとして、その子ども達が社会に入った時に各企業でせっかく学んだ知識を活かす機会がちょっと少ないのではないかと、徳島は中小企業が多いものですから、いろんな方とお話させていただいた時に、企業は業績が優先で従業員を守る勉強会などが後手になっています。せっかく防災の勉強をしてきた子ども達が入社しているのに、活かしたような取組が少ないのではないのでしょうか。

また、大企業や病院などにも避難訓練などの相談で出かけることもありますが、まだまだ知識が不足していると思います。いろんなことが上手くいくことにより県民の命が守られ企業が守られ県民が強くなっていくと思うのですが、次のステップをお願い致します。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。防災士の授業などは、我が大学でも、履修生の金銭的な負担も



あるんですが受けていただいている方もいて、その後の活躍をということで非常に大切にご指摘でした。

(青木委員)

防災の繋がりがあるんですけど、全体を通して意見を言わせていただきます。いつも飯泉知事がペストの後のルネサンス、そしてコロナの後にはSDGsだよというフレーズを最近よくお聞きしております。私もその通りだと思っております。

総合計画はSDGsが最大のテーマであるというふうに考えております。資料1の表題の徳島版SDGs持続可能な開発目標の実装に向けてという副題がついていると思います。SDGs、今日お集まりの皆さまはご理解いただいていると思いますが、持続可能性な社会づくりといった支援でございます。先ほど防災の話がでたように阿南市新野町で新野シームレス民泊推進協議会防災部会長を務めさせていただいているところです。昨年10月16日に新野町、福井町、橘町と3町で民間主導で広域避難訓練を実施させていただいております。SDGsに落とし込むとやはり持続可能性が高い地域づくりを防災の視点から取り入れた取組でございまして、大学等で高い評価をいただいているところです。計画の中にも今後のポイントは間違いなくSDGsで地域づくりに落とし込む計画が実用であろうと考えてございます。それを全体としてまるとして、大阪関西万博へ繋げていただきたいというのが思いでございます。

若い人の意見は引き続いて聞くべきだと思っております。若い方に対しての大阪関西万博のPRだったり、今日協議されております総合計画の中身ですね、高校生や大学生、また学生の皆さんに徳島県、こうやって一生懸命作っているんだよと、ビジョンもってやっているんだということを伝えるべきだと思っております。その鍵にはDXだったりGXを上手く活用する、今はそういう時代だと思っております。全体の意見でした。

(山中会長)

ありがとうございました。最近、回りの企業さんからもSDGs何をしたらいいでしょうかねというような問合せが聞かれるようになってきましたけれど、SDGsを目的にするのではなくて、ご自身のビジネスの中でSDGsも解決できるようなことをちゃんと考えるというようなことが本当はSDGsの取組の中では評価されています。そういったことも大事にしてお手伝いしていけたらと思います。

(井上委員)

テレビでもSDGsという言葉が流れていて、皆それが大事だとはわかるのですが、どうしても認識が強くなればなるほど、中身が伴わず言葉だけが独り歩きしてしまうことがある。自分の生活の中で実感できるのが大事だと思うので、SDGsを推進していくにあたって何か新しいことをしなければならないとか、そういった形の方向に向くことが多くなりがちになるが、そうではなく、いろんな地域独自の生活があって、その中で実は今までやっている生活の中にSDGsの要素が含まれているよということに気が付いていくこと、自分の中で、生活の中で、これがSDGsに繋がっていることに気が付いていくことが大事じゃないかと感じております。農家民泊なども推進していく中で、地域の人が今生活の

中でそういったことが感じられる、発見できることが非常に大事だと思う地域の魅力とSDGsと今の生活がどう繋がっているのか、講習会や研修会などでも新たな魅力として発見していくことと、かつ来訪者に対しても学びの場になる。各分野の事業を推進をする中でも、SDGsに気づけるような政策を進めていただけたらと思う。自分自身でも地域の魅力を感じながら、繋がりを感じていけたらと思います。

(山中会長)

ありがとうございます。私が言葉足らずのような話もちょうどきちっとしゃべっていただきました。おっしゃるとおり、生活時間の中で意識してというか、自分がどう思うかということでした。

(齒朶山委員)

SDGsの話もそうなんですけど、そう言う割には計画が進んでない気がします。目標はSDGsの場合は広いですからどの項目が合うとかということのも大変なのですが、自分自身の生活をどう考えていくのか、変えていくのか、改善していくのか、私なんかは今ペットボトルとか缶ジュースだとか当たり前のようになってます。でも私はほとんどそれを購入したりしません。ほとんど使ってないんじゃないかなと思うんですね。SDGsを意識しているわけではありませんが自分の生活の中であまり欲しくなかったりだとか、必要ないということなんですけど、そういう環境を考える意味でもあまりにも溢れすぎていてそれをどう押さえていくのかという方向も必要じゃないかなと思います。自分自身がどういうライフスタイルをもっていくのかあわせて考えていくのが重要と思っております。

ちょっと質問というかお願いなんですけど、知事のご挨拶の中にもデジタル化の話ができて特に日本が遅れている、コロナを含めて遅れていることが明らかになってきました。

デジタル対応の社会になっていくということは、食い止めようがありませんし、推進していかなければならないのだろうと思うんですけど、いただいた資料のA3の23ページ、ただの一人も取り残さないデジタル社会をと書いていただいております。具体的にどのような方法があるのか。私たちも自分たちの身の回りを見たときにパソコンを持っていないスマートフォンは持ってはいるけれど、十分使えていないという人たちが圧倒的に多いなと思います。ですのでスマートフォンを持っているけど見ていないということではなかなか連絡が付かなかったりするんですけど、そういう人たちが非常に多い中でスマートフォンを連絡用に使うだけじゃなくて、これから韓国や中国のように大きなお金を使っていくというようになってきますし、そういったなかでどうやって誰一人取り残されないデジタル社会に対応できるという方法をとっていけるのかどうか、併せてコロナの関係で子ども達がタブレットを持ち帰ってきます。

それを家庭の中で使うときに例えばトラブルが起こったときに、そのトラブルにどう対処していくのか、それは保護者の方達の知識にかかっているのではないかと、それならばいくらタブレットを持ち帰ったとしても家庭の中でちゃんと環境が整っているのかどうかということも含めて、とても心配になるんですけど、そういったことを計画の中では細やかに指導していくと書かれているのですが、はたしてこれが十分になっていくのかどうかという対応策は考えていただけるのか、教えていただけるとありがたいのでよろしくお願

します。

(山中会長)

ありがとうございます。デジタルデバイドということですが、日本って、すごく多様性を重んじる国だと思ってまして、おっしゃるようないろいろな人に対して対応していく。

逆に機械の方から寄り添っていくみたいな動きも非常に大切だなと思いました。

お答えは、まとめてさせていただきます。

(近藤委員)

お世話になります。まず本日のご準備、行動計画の数値化本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。計画も拝読して、予算案とか参考にさせていただいたんですが、おそらく課題やグローバルなトレンドをしっかりとつかんだ計画になっているかな、本当にすごいなと感動しています。一方で、これだけ計画の精緻化と様々な領域に対してはられているので、めちゃめちゃ忙しいんじゃないかなと思います。この膨大な量の工数がかかって、おそらく人の数、なぜこんなことを申し上げているのかというと、民間企業もグローバルトレンド、DX, GXっていうのは、マネジメントできる人材が足りていないんですね。

そういった意味では、おそらく行政も同じなのではなかろうかというところで、おそらくその今のリソースの中だけで、これだけのこの素晴らしい計画を実行していくのは難しいんじゃないのかと思っております。ですので、民間企業も同時のこの領域、DX, GXで実績を残したいという企業が非常に増えているので、コクリエーションの観点で、民間企業をうまく計画に巻き込んでいくというのが必要ではなかろうかと思っております。ですので、この計画の実行段階で、民間企業もしくは地元の企業、その領域で活躍されているIT企業だったり、グリーン活動をされている方々だったりをまきこんで、共に実績をつくっていくのがいいのでは、できるだけコストを抑えて、実績を最大化するっていうのは、そういった取組が必要なのではないかなと思いました。

(山中会長)

ありがとうございます。結構、的をついているといいますか、デジタル化については発注問題というのは結構大変な問題でして、ここをなんとか改革していく必要があるのかと義務を感じております。

相談からちょっと始められるような関わり方がすごく重要ではないかなと思います。

(布川委員)

ちょっといいですか。当社の今やっていることについて、ご披露させていただけたらと思います。

デジタル化とかいろんなことをやってますが、高齢者がついてこれない。私も高齢者なんですね。そろそろ70が見えているんですが、やっぱりですね、私はいくつになっても自身を鍛えていかないとダメ、勉強しないとダメ、身体を鍛えていかないとダメ、健康にも注意しないとダメ、そういうことをやってもらいたいというのが当社の人間には言っているんですね、先ほど話の中で、IT技術を使って社員にいろんなことを発信したりす

るんですね。でも、それを見れないとかね、聞いてないとかね、そういうことを言うのはダメです。見てください、見ないのはあなたが悪い、分からないのなら聞いてください。

それはそんな難しいこと言ってないですよ。高齢者が何もできないことはないと思います。やればできる。本当に95歳とかになって、使ったことないものを使えというのは無理かも知れませんが、努力すれば必ずできると思うんですよ。その上達のスピードって違うんですけどね、でもやっぱり努力するべき。それを努力せずに、やっぱりできないから、私は分かりません、だからあんたしてよ、じゃなくて、やっぱりみんなだね、そういうことってやっていかなあかんと思います。社員には聞いていないのは許さんと、それは君が悪い、わたしよりずっと年下の人間が、それを聞いてないや見てないというのは言わせないっていうことをしています。

それから、私も水筒持ってます。これ皆さんに勧めたいと思うんですけど、夏は冷たい飲み物が飲めますし、冬は温かい飲み物がすぐ飲めます。ペットボトルの飲み物持っても、すぐに温まって変な温度になったり、冬は冷めて冷たくなる。これを持ってるといつも快適な飲み物が飲めます。それから変なものは入ってませんし、これ家で作ってますから。ということで、いろいろやっぱり自分自身ですね、いろいろやっていかないといけないと思っています。私のことを言わせていただきました。

(山中会長)

ありがとうございます。大変、楽しいメッセージでした。

(影治委員)

昨年の8月に、徳島県の町村会の会長に就任させていただきました、美波町長の影治信良と申します。本審議会には初めての参加ということで、よろしく願いを申し上げます。徳島県さんとは、我々町村とは、地方自治体としては同じですけど、一番近いところで行政をやらさせていただいているということで、計画を見るときに我々の町村の計画がございませう。そんなときに行政っていうのは、何をするとこかと言いますと、皆様が考えていらっしゃるように、生まれる前と言いますが、子どもが生まれてから、そしてお亡くなりになるまで、その方の一生の人生の中のそれぞれのステージステージで、関わりを持ちながら、ご支援をしている、そんな仕事かなと思っております。私自身は、計画っていうのは360度、皆様がそれぞれの各界から参加されているように、いろんな仕事をするのが自治体でありますけれども、私自身町長という職をさせていただいているという関係で申し上げますと、やはり使命としまして命と暮らしを守るところに集約していくんではないかと思っております。特に直接的に、命に関わるっていうようなところ、もうひとつは自助・共助・公助っていうフレーズをお聞きになったことがあると思っておりますけど、特に公助のところっていうのは、自助と共助がなくてはならないものではありますけれども、特にハード設備であったり、直接的に住民お一人お一人また地域の方々でなかなかできないことを我々がさせていただくっていうような役割分担みたいな考え方を持っておりますので、このような計画を作るときにはさきほど申しましたとおり、すべての事象を網羅するような計画でなくてはいけないし、いわゆる期間も定められていますので、そのときの視点というのは、これは私個人の意見ですけども、ひとつは持続可能性ということで、サ

ステナブル、さきほどから言われているようにSDGs。そしてもうひとつは、ダイバーシティということで多様性、そして三つ目は、包摂というインクルージョンと言いますが、ある意味優しさと言いますか、おもいやりっていうところに視点を置きながら、時代の要請、流れっていうのはないのかなど、知事の最初のご挨拶にありましたけれども、ひとつはカーボンニュートラルということで、地球環境っていうのが我々が住んでいる、これを大事にしなければならない、そういったところの大事な自体の要請っていうのは頭に置きながら、そしてSDGsという、2030年という目標が定められている。そういったところに向かって、どのようにしていくかっていうことで最終的には、県民の幸せっていうふうにつながるような計画っていうようなことになっています。

すごくこの、初めて参加させていただいて勉強不足のところがありますけれども、見させていただいたときに非常によくできた計画かなと思っておりますし、この改善の見直しシートもしっかりとやられているということで非常に期待をしたいと思います。徳島県さんの計画と我々町村の計画は、関係が強いということで、次に見直しをするときは、やはり計画は国の大きな計画、そして県さんの計画でその中にちゃんと秩序だったものになるような形で作っていかなければならないというように考えておりますので、これを見させていただかなければ、特に委員として就任させていただいたのはありがたいですけれども、なかなかいい意見は言えませんが、そういったことで同じ地方自治体の代表ということで、意見を何か言わなければならないんじゃないかという圧力もひしひしと感じましたので、手を挙げさせていただきましたけれども、意見らしくない意見とさせていただきます。以上でございます。

(山中会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、県だけでなかなかやれるようなことだけじゃないので、地方自治体の方とぜひ連携をしていただけたらと思います。他ご発言いただいている方、おられますか。

(松尾委員)

松尾です。よろしく申し上げます。ターゲット5の未来へ継承のところになるのかなと思うんですけれども、自然エネルギーの最大限導入というところがあって、この冬とても寒くて電気代も高騰しているということで、平均7千円ずつくらい各地域上がってる報道もあったんですけれども、自然エネルギーの導入という点では世界的な流れでもありますし、環境のことを考えた上でのすごく重要なことだと思うんですけれども、課題になっている安定供給が難しいということが以前から言われていて、これは世界的な課題なんだと思います。これを徳島県内で平時は普通の電力を使用していたとしても、例えば災害が起こったときとか地震が予想される徳島県の中で災害時の電力の共有が難しくなったときに徳島県内で自分たちで発電してそれを最低限の医療ですとか命に関わる場面で電力を利用することができる仕組みができると、世界的に見ても画期的な流れになると思いますし、それが課題になればいいなと思います。コンテナ不足とか社会情勢の変化で輸入がいろいろ難しくなっていたりですとか、資源が不足していて日本は食料に関してもそうだと思うんですけれども、減少がある中で徳島県は土地もありますし、自然もたくさんあるので、

それをなんとか活かして自給自足までいかないにしても平時以外の県民の命が守られる状況になるといいなと思いました。

(山中会長)

ありがとうございます。自然エネルギーの活用は蓄積できるフェーズですよ。それが一番鍵になってくると思います。他いかがでしょうか。そろそろお時間かなと思います。もしなければ事務局の方へお返ししたいと思います。先ほどのご質問について、県の方から何かございますか。

(事務局・政策創造部総合政策課)

瀬尾委員のご質問について、本計画にデジタル田園都市国家構想がどのように反映されているかという部分でございます。デジタル田園都市国家構想、デジタルと田園（グリーン）とのマッチングによりまして、デジタルの力でもって地方活性化を推進するものでございます。本県にそれを当てはめると、例えばサテライトオフィスでございます。地方においても東京で働くのと同じような働き方ができることに加えて、休日はサーフィンをしたりだとか、そういう地方ならではの暮らしができる。グリーンの部分で申しますと自然エネルギーの分野で、本県で言うと太陽光発電や水素といった取組を進めているところでございます。本県がこれまで進めてきた事業が、逆に国の方でデジタル田園都市国家構想というような形になって現れてきたと考えているところでございます。

(瀬尾委員)

国は、デジタルデバインド対策として230万人推進人材を養成すると言っているが、それはどのように。

(政策創造部)

デジタル支援員の話がありました。国の方もそうなんですが、県の方もデジタル社会を迎えるため、誰一人取り残さないデジタル社会を目指す必要があると考えておりまして、既に総合計画の中にも盛り込まさせていただいておりますけれども、デジタル支援員の育成というものを今年度からスタートしているところでございます。既に産学官からなるデジタル人材バンク育成プラットフォームを設立しまして、デジタル支援員として今年度、22名の方の育成を行ったというところでございまして、これを来年度、再来年度続けていって、合計では80名くらいのデジタル支援員を徳島県で育成したいと考えているところでございます。デジタル支援員の皆様が地域の企業であるとか、市町村、教育現場といったところで、しっかりとデジタルの支援を行っていくというような取組を進めていきたく、これを国と連動して進めていきたいと考えております。

(経営戦略部)

先ほど、布川委員の方から半田病院のサイバー攻撃の例を挙げられまして、サイバー攻撃への対応ということでご質問がございましたので、徳島県庁のセキュリティ確保の取組について発言させていただけたらと思います。

情報化の推進に当たりまして、セキュリティを確保することは何よりも重要であると考えておりまして、徳島県庁におきましては、まず、ネットワークを外部と切り離して運用しているという対策を取っているところでございます。重要なデータが保存されている行政内部ネットワークについては影響を与えないような仕組みを構築しているという状況となっております。

また、普段、職員が業務で使用している行政事務用パソコンについては、最新のセキュリティソフトを導入しておりまして、振る舞い検知型ということで対応しているところでございます。また、USBメモリにつきましても、登録することを前提としておりまして、登録されていないものについては使用できないというような仕組みを導入しているところでございます。

万が一、ランサムウェアに感染して、半田病院のようにデータが暗号化され読めなくなった場合においても、バックアップ体制を強固な形で講じているという状況でございますので早期の復旧が可能となっております。

今後とも、まずはこうしたシステムで防ぐというような重層的な対策を適切に運用するとともに、職員に対してもしっかりと研修をして参りたいと考えております。

(山中会長)

ありがとうございます。お時間来ていますので、知事をお願いします。

(飯泉知事)

各委員の皆さん方からは、私が冒頭申し上げたように、3つの国難。そしてそれを克服していく未来技術としてのDX、GX。そして全体の俯瞰としてまずは2050年カーボンニュートラル。そこに向かっていくにどうしても世界中で達成をしないとイケない2030年のSDGs。そしてそこを今度は徳島が牽引をしていこうということで、絶好のPRの場である2025年大阪・関西万博。それぞれに非常に身近に、あるいはこれからの未来志向でご提言をいただいたところでありまして、今回いただいた点につきましては、すべて具現化をしていけるように、これはあくまでも計画でありますので、もうひとつこれを実行するための予算。今日発表させていただいた。非常に記者の皆さん方も関心が高く、その分だけ、こちら遅れた訳ではありますが、それでは足りんと、もっと終わった後で時間を取ってくれという話がありまして、そういった対応もさせていただくわけがありますが、それぐらい今申し上げたファクターに対しての関心が高いということになります。

そこで順次皆さん方からいただいた点についてコンパクトに申し上げていきたいと思っております。瀬尾さんからいただいた点については、資料の1、各施策、代表事例だけ書いてありますが、この中にデジタル田園都市国家構想、つまりデジタルと田園都市、GX・DXということで頭に全部つけさせていただいておりますので、それがひとつの事例であると。それからデジタル支援員、先ほど家にタブレット型端末、歯朶山さんが大変だよという話があったんですが、実は授業でも大変なんです、GIGAスクール。つまり35人学級で授業をした、誰か一人がどこか触っちゃってシャットダウンしちゃった、先生直せないです。日頃使い慣れてないわけですから。授業が止まる、そこでデジタル支援員が要るとい

うことを知事会長としても提言をして、国もようやくね、230万人っていったのもそういう話から出るわけでありまして、デジタル支援員が、とてもとても足りない。全く無理な話なんです。先ほど非常にいいヒントを井上さん、別分野、SDGsでいただいた、SDGsっていうと、なんか目新しいものか、こう思うんですが、そうではないんです。まさに地域での営み。それがということで、実はこのFRaUも県が作ったのではないんです。これは講談社がFRaUを出していて、ここにも書いてあるんですけどね、その「S-T R I P (エストリップ)」とは、実はSDGsトリップ。それを見るんだったら、創刊号ですけどね、徳島へ行くと、全編徳島なんです、まるごと。つまり、講談社でも、皆さん方に、特に女性向けの雑誌なんですけど、魅力的なSDGs、そのモデルはすべて徳島にあると、いうことでまるごと徳島。ということになっていて、この後それぞれずっと冊子ができていくんですけどね。ということで実はこの支援員についても、今それに成り代わる人が何百人も何千人もいるんです。ということで徳島県が何をやっているかという、例えば、高齢者の皆さんというデジタル、情報通信、ITが弱いなんて言われちゃうんですけどね、実はそうではないんです。徳島の人たち、ただ我々高齢者と呼ばずにアクティブシニアと呼ばせていただいているんですが、実はシルバー大学院で人気が高いのはIT講座なんです。それでシルバー大学院で資格を取っていただいて、今、小学校などに行っていただいて、プログラミング教育やっていただいて、お孫さんたちの世代に対して。この皆さん方をe-とくしま推進財団の皆さん方、ここは例えば物産協会、県内のITの企業の皆さん方、団体と連携してもらって、シルバー大学校、大学院、その卒業生、生きがづくり推進員こうした皆さん方と連携していただくと、たちどころに何百人、何千人、こうした人たちが実はデジタル支援員になりうるということがありまして、これは爆発的にやっていたと、ということで普段使いが一番重要。そのために長い間をかけて、シルバー大学校大学院も徳島は、全国で最も歴史があるシルバー大学校大学院ということになっているんですね。そういった普段使い、あるいは今やっておられることが実は目新しいことではなくて、最先端やっておられるんだよと、こうしたことをもっともっと知っていただいて、我々もPRする。あるいはプラットフォームという言葉がやたらでてるんですが、そうした場を作り上げていこうという形で進めているところでありますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

もう一点、古本委員さんからのご質問、徳島の医療遅れているのではないかという話があったんですね。徳島の医療が遅れると、この国の医療は終わっちゃうんです。ていうのも専門医の話もあって、つい先般、一般社団法人日本専門医機構と全国知事会との意見交換会、理事長とやったんですけどね。いま専門医が足りない、専門医をたくさん作って、新しい分野、地域医療なんか新しくできあがったんですけどね。なかなか人がいない中どうやって作っていくかというなかで、医療過多のところからめしあげていくという話になっていて、徳島は典型的なところで医療過多だと言われているんです。確かに人口10万人あたり、医師免許の数日本一は徳島県なんです。ただ言われたように実はお医者さんの免許は定年がないんですね。だから実際に稼働している、勤務医として、例えば徳島大学病院、県立病院、鳴門病院、日赤、それぞれ色々な病院があるけれどもここで実働している人たち、というのは必ずしも日本で一番ということではなくて、どちらかというと東京とか大阪とか大都市部にたくさんいるんですね。ただこうしたことをただ単に免



許の数だけでやるのではなくて、実際に実働、こうしたもので見ていく。そうした形で新たな専門医のあり方といったものを考えていかなければならないということで、一から考え直してくれと。ということ強く実は言っている真っ最中ということでありますし、徳島の医療が多いと実感は仲之町周辺に来ていただければおわかりいただけると思う。お医者さんが複数軒並んでいる。逆に東京とか大阪に行くと、その一つの団地群の中でも一軒あるかないかなんですよね。だから今回コロナ病床の話もできましたけどね。東京・大阪は医療、一発で逼迫しちゃう。一見すごい大病院があつてすごいって言われるんですけど、人口比率で見ると、とてもとても逆に医療過疎、これは大都市の実態なんですね。さっき仰ったようにこれから重要なのは、専門医になるためにいかに魅力的な病院と、最先端の医療ができるかできないか、今は素晴らしいマグネットドクター、引きつけてくるドクターっていうのがあるんですけどね、それだけじゃなくて、ダヴィンチをはじめベッドCTなどなど最先端の医療機器がどれだけあるかというのが勝負になっていくところですので、徳島大学病院と県立中央病院が一体化した総合メディカルゾーン、日本初のものを作り上げたというのも実はそういうところにあつて、で、これからどんどんお医者さんで専門医を目指す、さらに腕を磨こうとする人たちが徳島を目指してくれる、そこからいろんなところへ旅立っていただけると。こうした形を徳島としてやっていくということで日本初として公的公立病院、今15を束ねた医療コンソーシアム、そして、ローカル5Gあるいは5Gをもって標準装備でこれをつないでいこうという遠隔医療、遠隔診断、遠隔手術こうしたものがきっちりできる、日本のモデルを作り上げていこうと今進めているところであつて、それが布川委員が言われた、実はサイバーテロなどに対しても強い、つまり専用回線のなものを使っていく。インターネットに繋がっていると全部入ってきちゃうんですね。つまりイントラとって、その中だけで閉じる。これが大変重要なところで、ローカル5Gというのはまさにそこになってくるところでありますので、我々としては日本最先端のそうしたモデル、これを徳島で実現していく。そこで先ほど冒頭で、DX、GX、その最先端の事例といったものが徳島にあり、またそれを期待されている、そうした点を申し上げたところでもありますので、ぜひ理解をよろしくお願い申し上げたいと思います。

今日いただきました点、我々としてもしっかりと咀嚼をさせていただき、そして身近なものとしてこれらを感じていただくというお話をいただいたとおりの形で進めていければと考えておりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

(山中会長)

欠席の委員さんからご意見いただいているそうですので、事務局からご披露いただいて、あと事務局から事務的な連絡事項がありますので、お願いしたいと思います。

(事務局・政策創造部総合政策課)

山上委員からいただいておりますご意見をご紹介します。現計画では、重点戦略3にフレイル対策展開をあげ、オンライン等を導入するなど実施手法を見直す、開催の場も拡げるとされています。高齢者につきましては、このコロナ禍において、「自粛」

や通いの場の中止などにより、フレイルや認知症が増えてきております。実際、診察室でもしばらくぶりに診る患者さんの弱りに愕然とすることがあります。Y o u T u b e やケーブルテレビで体操できるようにしたり、デジタル対応力アップと兼ねあわせて、通いの場で高齢者のスマホやスマートウォッチ教室を開催して、スマホ等での通いの場や参加や健康管理支援ができるようにするのはいかがでしょうか。そのサポートを県で行ってはいかがでしょうか。より一層のフレイル対策拡充になるかと思いますとの意見をいただいております。

<事務局説明>

- ・会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認を頂いてから、発言者名も入れて公開したい。
- ・今後のスケジュールについて、本日からパブリックコメントを実施した後、県議会2月定例会に提案し、ご審議いただく予定。
- ・次回開催は、来年度を予定しているが、山中会長と相談の上、改めてご連絡させていただく。

～以上～